

影山僖一名誉教授のこと

小 倉 信 次

1. 影山僖一教授のご功績私見

専任講師として赴任し、影山僖一教授（以下、教授）にお目にかかったのは1980年4月のことである。教授もその年4月に助教授から昇格されたばかりであった。過ぎ去った歳月の長さや年齢の開きの上に、通勤の手段・ルートの違いも手伝って、その当時の教授を鮮明に思い出すのは容易ではない。私の若手時代に接した教授の印象は、産業・産業政策・中小企業問題などを扱う同じ経済政策領域に属し、多くの学会において発表を精力的にこなす、本学の紀要にほとんど毎号のごとく論文を載せ、そして著書も多数持っておられる研究熱心な経済学者というものである。

ところが意外なことであるが、その旺盛な研究成果を生んだ教授の研究スタイルは、その量的な多さへのやっかみだったのであろうか、本来お受けになるべき評価に照らすとき、もしかすると幾許かの損をされたのかも知れない。しかし、やがて教授はそうした空気を吹き飛ばすかのように、論文による博士学位を取得され、その研究の量的多さが質を犠牲にして成り立ったものでないことを立派に証明されたのである。

ところで、この量か質かというのは、なかなか難しい問題である。商品にいう「安かろう、悪かろう」の格言をもじれば、研究や文学・美術・音楽などにも、「多かろう、悪かろう」と考える傾向、つまり量と質を両立させるべく量的方面でも努力しようとするのではなく、寧ろ、多作を卑しみ寡作を尊ととする傾向さえあるように見える。

私自身は実は早い時期から、研究の成果はできるだけ早く論文にすること、論文はできるだけ早く著書に纏めること、著書が出れば躊躇なく博士学位（当時のイメージは論文博士）取得に挑むこと、著書は邦文のみでなく英文でも出版すること、などを信条としてきた。もちろん、これに込めたのは、多作主義そのものではなかった。込めたのは、研究の目標を高め設定し、学術書に直結するパーツとして論文を意識することで、質を落とさず、効率も上げられるのではとの期待感であった。

質が落ちないなら、効率は上がった方がいいとする自分の信条からすると、教授の旺盛な研究成果の発表（多作）は、それを真似ずに自分流を貫くにしても、やはり相当な驚きではあった。私見ではあるが、質を保ちながら、多くの研究成果を世に問い続けるために力を尽くされたこと、それこそが教授の経済学者としての真骨頂であり、後進の我々に遺されたご功績だったように思われる。

2. 影山僖一教授の足跡を辿って

私見を離れて、もう少し客観的に教授の本学における足跡を辿っておきたい。

教授は1975年に本学商経学部専任講師に就任され、1年の専任講師期間、4年の助教授期間を経て、1980年に教授となられ、2007年3月末をもって定年退職された。ご就任以来

32年の長きにわたり、商経学部・大学院での教育に力を尽くしてこられた。また、その間、いわゆる学内行政においても様々な役職を務められ、90年から92年まで経済学科長として、99年から2004年まで就職（指導）部長として、さらに2004年から06年まで大学院経済学研究科（修士課程）委員会委員長として本学の発展に力を注がれた。

次は、研究上のご功績と人となりについてである。すでに私見として述べたことと若干重複するのをお許し頂くこととして、主に言及できなかった研究の内容面に立ち入ってみたい。

教授は、長年にわたり、自動車産業とトヨタシステム、産業政策並びに政策評価の研究等をリードされ、研究成果を矢継ぎ早に論文として発表するとともに、それを著書の出版へと結びつけられた。単著の数は、教授になられた1980年以降で8冊に上る。学会活動にも熱心で、数多くの学会発表をこなされ、学会の役員を幾度も経験された。95年には、学位請求論文「日本自動車産業における技術革新と発展要因に関する研究」によって、中央大学大学院経済学研究科から学位を授与され、博士（経済学）となられた。

経済学者が、自動車メーカーという個別経営の研究に立ち入るには、方法面でご苦心も多かったことと思われる。最近ずっと新制度学派やマイケル・ポーターに強い関心を寄せて来られたのは、方法上の問題解決の可能性をそれらの中に見出されたためであろう。

多数の著書出版を通して研究成果を社会に還元された教授は、特に2000年4月の博士課程設置後、研究指導を通して成果の学内での還元にも熱心に取り組まれた。著書と学位に示されるように、大きな成果に裏打ちされた強い理論的確信をもって、研究領域（自動車産業・産業政策等の研究）と研究手法（新制度学派等）を同じくする若手研究者、後進の教育に注力された。

最後に、長い間のご功績に感謝申し上げるとともに、今後ともなお一層のご活躍を期待し、その土台となるご健康の維持に配慮してお過ごしになられるよう心からお願いしたい。